



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 〇秘書課 ☎36-7117

今月のテーマ 「住んでごしまだ」 移住定住施策 成果が上がっています

今月は、県外から島田市への移住者数が伸びている実績と、移住定住施策の内容、そして今後の方針等についてご報告します。

平成30年度上半期に県外から島田市に移住した人数(県および市町の移住相談窓口を利用した数)は34人。これは、県内35自治体中4位でした。移住者数のトップは沼津市の47人で、2位が三島市の46人、3位が富士市の42人、4位が島田市で、5位が富士宮市の28人でした。上位5自治体のうち、4自治体が東京圏から近い東部地区に集中しています。その中であって、島田市は東部地区以外で唯一5位以内に入りました。さらに、相談件数に対する移住成立率(移住者数)を見ると、相談件数41件に対し移住者数が34人と、県内自治体でダントツ1位の実績となっています。

さて皆さんは、移住定住応援サイト「住んでごしまだ」を見たことがありますか。このサイトでは、当市の気候、立地、魅力(特性)などの概要を紹介し、「島田を知る」「島田に住む」「島田で働く」「島田暮らし」の4つのテーマで、さまざまなサポートや助成制度を説明しています。

このうち「島田に住む」では、移住者の住宅取得に関する支援制度「島田に住もう応援奨励金」や「島田市空き家改修等事業費補助金」、公営住宅の情報など、住居に関する情報を掲載しています。特に、市内全域の不動産情報を掲載した「住んでご不動産バンク」は、市が川根地区で実施している空き家バンクの登録物件のほか、市内の不動産業者が管理する建物と土地の情報を一覧するこ

とができ、市外からの移住者だけでなく、市内で転居を希望されている人にも便利なサイトとなっています。

「島田市に住もう応援奨励金」を利用して県外から当市に移住した件数と人数は、昨年末までで9件34人。このうち世帯代表者の年代をみると、20代が1件、30代が7件、40代が1件であり、子育て世代がこの制度を利用して島田市に移住してきたことが分かります。この結果からも、市が重要施策として展開しているさまざまな子育て支援策が、一定の成果を得ていると考えます。

また、どこから移住してきたかという調査では、9件中5件が愛知県からの移住でした。平成27年から現在までの結果も、1位が愛知県、2位が東京都、3位が神奈川県からですので、今後は東京圏だけでなく名古屋圏にも、情報提供のウエートを置く必要があると考えています。

ほかにも、移住に関心のある人を対象にした冊子として、島田市移住案内「はじめてみてご 島田暮らし」や、島田に暮らす移住者の声を集めた「Green ci-tea Life」などがあります。お知り合いに移住をお考えの人がいらっしゃれば、この冊子をお渡し

いただき、是非、島田市の魅力をお伝えください。今年も、市民の85.1%が「住みやすい」と感じるまち島田(平成30年度市民意識調査)をもっともっと積極的に発信してまいります。



冊子「Green ci-tea Life」

みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などをご紹介します。

障害者手づくり製品のお店「にじいろ市場」が、12月に5周年を迎えました。

にじいろ市場は毎週、市役所本庁舎のロビーで開催。市内の障害福祉事業所など共同で、それぞれのオリジナル製品(パンや焼き菓子、布製小物など)を販売しています。私たちは、製品の販売を通じて、事業所を利用している障害者の社会参加と収益の向上を目指すとともに、障害者の就労訓練・コミュニケーションや、障害についての情報発信の

場としても活用しています。今後も、にじいろ市場をよろしく願います。

とき/毎週水曜日 午前10時~午後1時
(にじいろ市場販売事業者一同)



毎週多くの人利用しています